

報告書

氏名	渡部 穂乃花
研修名	海外フィールドワーク「若者の消費行動からみるマレーシア」
主催団体名	福島大学 経済経営学類佐野ゼミナール
研修国	マレーシア、ブルネイ
研修期間	8月21日（水）～9月5日（木）（16日間）
研修目的	<p>福島大学経済経営学類、佐野特別演習では、「訪日客数の増加」をテーマに観光と食についての海外調査研修を、マレーシアを中心にブルネイとの二カ国で行いました。マレーシアは年々訪日客数が増加傾向にあり、マレーシア国内でも多くの日本企業が進出し、日本人の永住者も多く、親日の国としても知られているため、日本とマレーシアの関係は密接であると言えます。更に、東京オリンピックにおいて訪日観光客の多くが東南アジアを対象としており、ASEANの中でGDP3位のマレーシアは観光客数を延ばすと考えられます。その為、今回の海外研修で訪日客数の増加をテーマとし、観光や食についての調査と「若者の消費行動」のアンケート調査をマレーシアのクアラルンプールで行い、今後の訪日客数増加へのアプローチを調査していきたいと考えました。また福島に帰ってきてからは、日本とマレーシア相互の文化理解のための交流事業として、マレーシアの若者の消費行動に関するイベントの開催を予定しております。</p>
研修内容	<p>私は、22日からの4日間ブルネイに於いて大使館訪問と都市内視察を行いました。大使館では日本とブルネイの密接な繋がりやビジネスとしてのムスリムの成立に関する話、イスラムを主たる宗教としている国のハラルの在り方について伺いました。そこから、マレーシアのクアラルンプールに戻り、日系企業を12社訪問しました。観光に関する調査のために、JTB、HIS、政府観光局を訪問し、訪日観光客の動向や特徴を伺いました。食に関する調査では、エダランこまち、ISETAN、AEON、日本通運、キューピーマレーシア等を訪問しました。風評被害の現状やハラルに対する取り組み、販売における注意点などを伺ってきました。大学訪問では、4つのグループに分かれアンケートを4大学でアンケート調査を実施しました。その後、マレーシアのコタキナバルへと移動し自然の観光ビジネスとしてのグリーンツーリズムを体験し、16日間のプログラムを終えました。</p> <p>8月 21日 午前 成田空港発 午後 クアラルンプール着 22日 ブルネイへ移動 23日 午前 ブルネイ大使館 24日 ブルネイ都市内視察（観光） 25日 クアラルンプールへ移動 26日 午前JETRO訪問 午後Soft Space JTB 企業訪問 27日 午前 HIS イオン 企業訪問28日 午前 キューピーマレーシア 企業訪問 29日 大学訪問30日クアラルンプール視察（観光）31日クアラルンプール視察（観光） 9月1日 午後 コタキナバルへ移動 2日 グリーンツーリズム参加 3日 クアラルンプールへ移動4日 午後 クアラルンプール発 5日 成田空港着</p>

<p>研修成果</p>	<p>今研修では、大きく分けて以下三点のことを学びました。</p> <p>一つ目は、観光に関してです。観光に関しては、旅行会社を主として企業訪問し訪日観光客の動向や、特徴を伺いました。マレーシアからの訪日観光客は年々増えており、市場自体が若く今後市場が伸びていくことが期待できることや、リピーター獲得により市場を拡大することが出来る可能性があることを学びました。まだ初期の顧客であるからこそしっかりとプロモーションを行うことがリピーターへと繋げ、直行便の飛んでいるエリア以外にも足を伸ばしてもらうことへと繋がっていくと学びました。その為にも、SNSの影響を受けやすいマレーシア人に合わせて、Face bookなどの情報収集源を利用していくことが効果的であるようです。更に、観光中のムスリムに関してはあまり気にしないひとが多く、そこまで構える必要がないというのはとても印象的でした。ムスリムに対して、偏見や壁を取り除くことがまずは必要であると考えさせられました。</p> <p>二つ目は、食に関してです。日系企業のハラルに関する取り組みと、販売に関する注意点などの話を伺いました。実際にハラル商品とノンハラル商品を分けて販売している店舗の視察や独自の方法で厳しいハラル認証を得てマレーシアでビジネスを行っている企業の話の話を聞きました。ハラルは、イスラム教の教えに則った製品であり、イスラム圏の国や人口も多くビジネスとしての利益も大きいですが、人によっても度合いが違うことや、認証制度によっても差があるなど、今後もし日本が取り入れていくとなった時の課題は非常に多くあります。更に、食品だけではなく化粧品や運送・保管にも一定のルールがあるハラルに対して、今後オリンピックでムスリムの観光客が増加したときにどこまで日本が理解を示し取り組んでいけるかが課題となっていくと感じました。</p> <p>三つ目は、マレーシアから見た福島県です。風評被害に関しては、どの企業も気にしている人はほぼいないと聞いていたのですが、完全になくなったわけではなく、過去に福島フェアと称して物産展を行った際にクレームが入った小売店もあり今後とも継続した風評被害払拭への取り組みは必要であると感じました。マレーシアはまだ訪日観光客は1回目の人が多く、観光場所が直行便の飛ぶ大阪や東京などに偏っている傾向にあります。その為、福島自体の知名度が低くプロモーションが必要であると言えるため、周辺エリアと協力して取り組んでいくことが必要であると学びました。</p> <p>今研修では以上のことを学び、知識を深めることが出来ました。</p>
<p>今後の取組</p>	<p>今後、研修成果をどのように活かしたいかについて記載してください。(300字～400字)</p> <p>今回の海外研修終了後の予定としては、現地大学で行ったアンケートを分析し、論文を作成することで学びを終わらせず更に深めていきたいと考えています。更に、福島大学経済経営学類の「多文化体験による国際人育成プログラム～若者の消費行動を通して～」の一環として、学内外の方々が参加できるイベントとして「ワールド・ショッピング in Fukudai (仮名)」を実施し、海外研修で得た成果を踏まえながらマレーシアから見た日本の食の在り方、福島の観光における消費活動の可能性を発信していきたいと思ひます。このイベントで海外から見た日本・福島を発信することで、多くの人にこれからの食や観光について考えてもらいながら、福島の復興に関心を持ってもらうことが出来ればいいと考えています。そして、東京オリンピックをきっかけとするさらなる発展の機会になるよう努めていきたいと考えております。</p>

